

## 〈大賞〉 耕作放棄地の活用法

佐々木 智香

私達は、自然と共に生きる事の大切さを忘れてはなりません。特に私達の生活に密接に関わる「土地」は私達が生きていくための基盤であり、大切に守り続けるものです。しかし現在、日本では耕作放棄地が増え続けています。これは、農業を続ける人が減少し、土地が適切に管理されずに放置されている状況を指します。

しかし、そんな中でも私達は「冬水田んぼ」という方法を通じて、耕作放棄地を有効活用し、自然と共生する事ができます。冬水田んぼとは、冬の間田んぼに水を張り続ける事で、生態系の保全や地域の景観保全に貢献する方法です。冬水田んぼは、水鳥の飛来地としても知られ、多くの種族の鳥達が飛来します。これらの鳥達は、田んぼで越冬し、春になると北へと旅立っていきます。私が住んでいる、おいらせ町も白鳥の飛来地です。白鳥にとっては冬水田んぼに水があるとエサの確保が出来て、子育てをしやすい素敵な環境になります。

冬水田んぼは、生物多様性の保全にも貢献します。田んぼに水を張ることで、水生生物の生息地となり、多様な生物が生息することができます。また、水鳥達は飛来する地域の生態系に影響を与え、生物多様性を高めます。

さらに、冬水田んぼは地域の景観を美しく保つ役割も果たします。冬の田舎の風景は、雪が降り積もると一面が白くなり、美しい景観を作り出します。美しい風景は、地域の魅力を高め、観光資源となります。

しかし、冬水田んぼの普及には課題もあります。冬水田んぼを維持するのは、水管理や鳥じゅう対策など、手間とコストがかかります。また、農業を営む人が減少している現状では、冬水田んぼを維持する人材が不足しています。これらの課題を解決するためには、地域全体で取り組むことが重要です。地域住局や行政、NPOなどが協力し冬水田んぼの維持管理を行う体制を作ることが求められます。冬水田んぼの価値を広く伝え、理解を深めることで、新たな人材を育てることも重要です。

耕作放棄地の活用は、地域の活性化や環境保全に繋がります。私達、一人一人が地域の自然と向き合い、その価値を理解して、守る行動を起こすことが大切です。私達の先祖が大切にしてきた土地を守り、次の世代に引き継ぐことが、私達にとっての使命であり、誇りです。